

2022 年 6 月

お客様各位

ジャクソン・ラボラトリー・ジャパン株式会社
生産部

国内生産実験動物の飼育センターにおける入室手順変更のご案内

拝啓 お客様におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さてこの度、弊社飼育センターにおけるバリア飼育室への入室手順を下記の通り変更いたしますので、ご案内申し上げます。

今後も高品質な実験動物の安定供給に努めて参りますので、引き続きご愛顧賜りたくお願い申し上げます。

敬具

記

1. 変更期日

- 2022 年 7 月 1 日(金)

2. 対象飼育室(ラット生産飼育室)

- 厚木飼育センター A21室 (生産系統: CrI:CD(SD))
- 日野飼育センター H11室 (生産系統: WKY/NCrI:CrIj, CrIj:WI, F344/DuCrI:CrIj)
- 日野飼育センター H13室 (生産系統: BN/NCrI:CrIj, PCK/NCrI:CrIj-*Pkhd1^{pk}*/NCrI:CrIj, ZDF-*Lep^{fa}*/NCrI:CrIj)
- 日野飼育センター H21室 (生産系統: CrI:CD(SD))

3. 変更の概要

- 弊社バリア飼育室への入室手順におけるウェットシャワーを対象飼育室(ラット生産飼育室)において廃止いたします。
- その他の手順(前室、脱衣室、着衣室および管理室の通過、滅菌衣類およびベンチレーションフード着用)は継続し、ディスプレイカバーの着用を追加いたします。
- 本手順変更による定期微生物モニタリング項目および品質基準の変更はございません。

4. 変更の経緯と内容

- 実験動物に携わる担当者のヒト由来の微生物を持ち込まないための入室手順として、ウェットシャワーは推奨事項の一つとして挙げられています。

一方で、湿度管理が困難なシャワー室の存在が微生物汚染源になったり、頻回な洗体がヒトにダメージを与えたりなど、微生物管理上マイナスの効果があるという論議もあり、明確な結論は出ていません。

- 弊社の飼育センターではすべてのバリア飼育室でウェットシャワーを使用しておりますが、従業員の労働安全衛生や雇用機会の拡大などを鑑み、実験動物生産におけるウェットシャワーの微生物管理上の効果を適切に検証し、再評価を行う時期であると判断いたしました。
- 微生物管理上のウェットシャワー効果の検証を目的として独自の検討試験を行い、滅菌済みの着衣やベンチレーションフードなど、弊社が採用している個人保護具を用いていれば、ウェットシャワーの有無に関わらずヒト由来の微生物をバリア飼育室に持ち込むリスクに差はないとの結果を得ました。この結果から、ウェットシャワーを廃止する選択には充分妥当性があると結論いたしました。

(参考:2022年5月 第69回日本実験動物学会総会ポスター発表「バリア飼育室におけるウェットシャワーの微生物統御効果の検討」)

- 対象飼育室の入室手順からウェットシャワーを廃止し、頭髮の落下を防止するためのディスプレイブルキャップの着用を追加いたします。その他の入室手順に変更はございません。ウェットシャワー廃止後の入室手順は以下の通りです。
 - 脱衣室:着衣の全てを脱衣
 - シャワー室:滅菌済みの帽子を着用、手指および足裏を70%アルコールで消毒
 - 着衣室:消毒済みの靴および滅菌済みの上下下着、靴下、靴カバー、無塵衣、綿手袋、ディスプレイブルキャップ、マスクを着用
 - 管理室内:ゴム手袋、ベンチレーションフードを着用
 - 手指(手袋)、足裏(靴カバー)を600ppm次亜塩素酸ナトリウム水溶液で噴霧消毒の上、管理室よりエアシャワーを通じて飼育室に入室
- ウェットシャワー廃止対象飼育室につきましても、引き続きSPFグレードの管理体制、定期的な微生物モニタリングを継続してまいります。今回の入室手順変更に伴う国内生産実験動物の品質基準に変更はございません。

5. 上記内容に関する問い合わせ先

営業部 Tel:045-474-9340 Fax:045-474-9341

(URL): www.jax.or.jp (E-mail): ask@jax.or.jp

以上